

〔デーリー東北 10/31(火)掲載〕

「稲生川」百選全国1位で第1回開催地

疎水の保全管理に理解

十和田でサミット始まる

「疎水サミット」は、食料の安定的供給の基盤である疎水を次世代に継承していくことを目的に、全国土地改良事業団体連合会などが初めて開催。今年2月、農水省認定「疎水百選」の全国投票第一位に輝いた農業用水路「稲生川」を持つ同市が開催地に選ばれた。



4人が疎水の活用方法などについて意見交換したパネル討議

サミットは、食料の安定的供給の基盤である疎水を次世代に継承していくことを目的に、全国土地改良事業団体連合会などが初めて開催。今年2月、農水省認定「疎水百選」の全国投票第一位に輝いた農業用水路「稲生川」を持つ同市が開催地に選ばれた。

中休
奥入瀬溪流グランドホテルで開いた開会式には、全国の自治体や土地改良区の職員ら五百人が出席した。
実行委員長の盛貫青森県土地改良事業団体連合会長や中野渡春雄十和田市長らのあいさつの後、東京大学大学院の林良博教授が「疎水に期待する

10.31 (Tue.)
デーリー

いることを課題に挙げ、地域ぐるみで保全活動に取り組み必要性を強調。「サミットでは、使命を常に確認しながら活動を継続することが大事だ」と呼び掛けた。
全国投票で上位に入った疎水を管理する土地改良区の事例発表や、有識者四人によるパネル討議も行った。三十一日は稲生川沿いで現地検討会を開く。